
メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所
NO.6 (2012年7月17日発信)

しっかい!

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

★被災地関連情報★ 引き続き募集中です!
問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集!
連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

【おもかげ雛(前号記事参照)】希望の方は連絡下さい!
連絡先[安部白道 080-1885-8932]

【仮の町、仮の地域そして仮設】

(安部 白道)

福島事故は、おそらく日本の歴史上初めて難民を誕生させた出来事として後生に語り継がれていくのではないかと。そのことが1年以上も経ってようやく真正面から議論されようとしているのが福島県内の原発被災町村「仮の町」構想だといえる。

過去の大災害でも、応急的な仮の住まいだけは行政も対処してきたが、民草は雨露をしのげればよしとする発想から脱却できない為に、仮設住宅は提供しても、同時に仮の地域や仮の町を創るという次元まで思いが至らなかったのかもしれない。

それでも計画的避難がある程度実施された福島では、宮城や岩手に比べると地域ぐるみの仮設移住が行われたところが多いという印象を受ける。

例えば、福島市内には浪江町の仮設が7カ所設けられているが、その多くがある程度まとまった地域単位で生活している。一方で、利便性の高い仮設と市内でも辺鄙な地域とでは入居率が大きく異なる。ただ、そんな孤立した仮設のほうが自治能力が高いという評価もある。自治会長の力量だけでなく、劣悪な環境がかえって住民の結束を強くしているようにも感じられる。

福島市には、ほかにも飯舘村や双葉町の仮設も点在する。福島市以外の町村の仮設が存在以上、すでに「仮の町」が動いているのである。

飯舘村の仮役場も福島市内に設けられており、村の健康福祉係を訪ねたとき思わぬ言葉を耳にした

「もう高齢者(への支援やサービス)は十分だと感じています。資金も相当につき込んで

いますし・・・問題は子どもへの支援。今後の村としての大きな課題ととらえています」

子どもの被爆に対するナーバスな不安を、市内の仮設でカフェに参加したあるお年寄り
は話してくれた「うちは三世代で生活しているが、親や私ら年寄りの食べ物はそのへんの
スーパーから買っているが、孫たちには西日本から宅配便で取り寄せた食材しか与えない。
もちろん鍋釜も別々にして調理している」

こんな話を耳にする度に、国や東電への怒りや絶望感が募って仕方がないが、心を鼓舞
して福島の子供たちをしっかりと支援する方策を考えていくしかない、と決意を新たに
している。

【ショッキングな遊び】

(遠野より 古賀 久恵)

先月下旬の話です。被災地の仮設住宅集会所でIT ボランティアをしていると「つま
ない遊びがしたい！」と、小学3年生の男子たちが近づいて来ました。

どんな遊びなの？と聞くと

「死体ごっこ！」

ビックリしないようにして、内心かなりビックリしていたら、追い討ちをかけるように「じ
ゃあ水死体ごっこ」と。

目の前で「死体ごっこ」をはじめると子ども・・・・・・・・。

実際には、ただ動かずに寝ているだけというのが真相。

飽きた子が急に起き上がって、大型TVの後ろに隠れました。

「危ないからでてきなよお～」と言うと、素直に出てきて今度はホワイトボードの裏にあ
った座布団の山の上に上って、積んであった座布団が崩れて、座布団の雪崩と一緒に落ちてき
ましたた。

そして一言

「あ～つまんなかった」

数時間すると、またその子が現れました。

ねえ、さっき「つまない遊び」してみてどうだった？と聞いてみると。

あれは「ひとり鬼ごっこ」で、クレヨンしんちゃんがやってたから、本当につまらないのか
自分でやってみたのだと。「死体ごっこ」も「水死体ごっこ」もクレヨンしんちゃんのお話
にあるのだそうです。

【ショップ事業 報告】

(大久 恵美子)

7月10日火曜日仙台市若林区の日辺グランド仮設住宅住民による1回めのショップ事業
が行われました。

事業体名「ニッペ de カフェテラス」の名の通り、お茶とランチを提供するカフェを開催。

メンバーは6名ですが、もともと農家で大家族の人が多く、大人数の食事を作るのは「お手の物」とのこと。当日のランチメニューは炊き込みご飯、にゅうめん、酢の物、お漬物そしてデザートまで付きました。

私たちアドバイザーもいただきましたが、味はバッチリ!!!どれも美味しかったです。さすが腕利きの主婦の集まりです。予定より多い50食を用意したのに完売したのも頷けます。

さて盛り上がったカフェの後の反省会、疑問点や改善点などいろいろ出て、それを活動記録票に書いてもらおうと何度となく促しましたが、なかなか筆が重いようです。結局「後からゆっくり書くわ」の言葉に負けてしまいました。

実はカフェのほかに踊りのイベントも準備していたようですが、今回は余裕がなくて忘れていたとのこと。次回はもっと盛り上がりそうですね。

メンバーおそろいの帽子も大急ぎで準備したとのことですが、とてもおしゃれでした。

企画力と実行力は抜群の「ニッペ de カフェテラス」。これから「事務力」もつけていただき、さらなる発展を期待します。

